

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間) 最終)

郷原 中学校区 校番 6 学校名 郷原小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
働き方改革	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	○長時間勤務の削減	<p>○年度当初は、新学期の準備や提出物の作成等、時間外勤務の割合が多かったが、徐々に教職員のタイムマネジメント力が発揮され、月45時間を超えない教職員の割合が平均73%まで向上した。(目標値:85%)</p> <p>○会議の精選や検討内容の絞り込み等により、校内の業務改善が少しずつ進んでいる。</p> <p>○1学期末は、水曜日程を推進して放課後の業務時間確保に努め効果を得た。</p> <p>○児童と向き合う時間が確保できていると感じる教員の割合は75%であった。(目標値:70%)</p> <p>○昨年度からの日課変更により、児童の下校時刻が早まった分、授業の準備等や教員間の連携に時間を割くことができています。</p>	<p>○今後も業務改善に向けた研修や、毎月の時間外勤務表の個人提示を続け、タイムマネジメントにおける教職員への意識付けに努める。</p> <p>○教職員間で励まし声をかけ合いながら、困り感を共有する。また、業務改善につながる実践例など普段の会話からプラス志向の環境を作る。</p> <p>○コロナ禍による児童のストレスと向き合いながら「働き方改革」を推進することは難しいが、教職員には健康を第一に考え生活を豊かにすることが児童への効率的な教育活動につながることを繰り返し伝える。</p>
確かな学力	主体的に学習に向かい高まる子供を育てる。 貫	<p>○基礎学力の向上</p> <p>○思考力の向上</p>	<p>○学期末テスト(国語・算数)において、30%未満の児童の割合は、国語3.8%(10人)算数2.3%(6人)であった。</p> <p>○振り返りの質については、3つの観点で評価表を作成し、その表に準じて評価を行った。</p> <p>【3つの観点】 ①資質・能力 ②メタ認知 ③将来への展望</p> <p>○すべての項目について書くことができた児童は、全体で6%であった。①資質・能力について振り返りを書くことができた児童は、57.3%であった。</p>	<p>○活用問題における正答率が低い学級が多かった。全国学力テストや昨年度の学力調査の分析を基に、チャレンジタイムの計画を立て、各学年で補充指導を充実させていく。</p> <p>○振り返りに関しては、2学期以降授業研究を通して研修を深めていく。</p> <p>○資質・能力の育成につながる振り返りができるよう、日々の授業で力をつけた資質・能力を意識し、指導を行っていく。</p> <p>○振り返りを書く際のヒントになるよう児童に「ごうはらっ子考えるヒントカード」の表を配付するなどし、3つの観点を意識して書くことができるように指導する。</p>
豊かな心	人との関わりから学び高まる子供を育てる。 貫	○目標をもち、計画を立て、頑張ることができる。	<p>○生活目標において目標を立て、達成することで、自分が高まったと感じているという項目については、91%の児童が肯定的な回答をした。毎月、生活目標について各クラスで考えることによって意識して生活する児童が増えたのではないかと考える。</p> <p>○郷原っ子7つのスタンダードを守れている児童の割合は、アンケートをとったところ90%の児童が肯定的な回答をした。教員のアンケートでは63%が肯定的な回答であった。児童の中では、守れていると回答した児童が多かったが、教員の視点では、まだ目標達成には至っていない。誰からも認められるような児童にしていきたい。</p>	<p>○郷原っ子7つのスタンダードは、児童に徹底できていない部分もまだあるのが現状なので、朝会や放送を活用して児童に呼びかけを行っていく。また、委員会や6年生を中心に児童主体で取組を進めていきたい。</p> <p>○2学期以降は、スタンダードの各項目にそれぞれ担当を割り当て、その担当が中心となって校内の取組を全体に広げるようにする。</p>
*			○「NOメディアDAY」における取組の結果、89%の児童が自分の決めた目標を達成した。課題としては、	○今後は、児童自身が目標レベルを上げて挑戦できるよう事前に保健指導を

健やかな体

自らの健康を
考えて行動し、
高まる子供を育
てる。



○進んで健康・
体力づくりに努め
る。

レベル1やレベル2を目標にしている児童が約半数を
占めているため、レベル4やレベル5を目標に達成す
る児童を増やしたい。

○郷原小学校の重点三種目において、新体力テスト
の結果を広島県平均と比較したところ、50%の学年
(種目)が平均を上回っていることが分かった。特に女
子はどの学年においても50m走の平均が広島県の
平均より高い数値であった。反面、男子の全体的な
体力向上、女子の長座体前屈に課題が残る。

行ったり、家庭との連携を行ったりする。
実施後はシールを使って評価し、児童
が楽しく取り組めるようにする。

○コロナ禍で外出の機会も少なくなる
中、運動の機会を増やすことが課題とな
るため、家庭でできる運動方法を提示す
ること、その意味を理解させることが挙
げられる。

○家庭学習として出している運動の意
味を児童が理解して行えるように指導を
していく。また、くれチャレンジマッチを利用
してクラスで体力向上が図れるように
する。